

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400476
法人名	(株)ケア21
事業所名	たのしい家 小倉北
所在地	福岡県北九州市小倉北区中井5-3-11
自己評価作成日	2025.3/25

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和7年3月28日	評価結果確定日	令和7年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームでは、利用者様に季節感を感じていただけるよう、四季折々のレクリエーション活動を行っています。季節ごとの行事やイベントを通じて、自然の移り変わりを楽しみ、心身ともにリフレッシュできる環境を提供しています。
また、地域とのつながりを大切にし、定期的に地域向けのイベントを開催しています。これにより、施設内外の方々との交流が生まれ、地域社会との繋がりを感じ、豊かな生活を送っていただけます。
さらに、併設している小規模多機能型居宅介護と連携し、日常的に交流を深めることができるのも当施設の特長です。施設内での活動だけでなく、他の事業所との交流も楽しんでいただけます。
私たちは、利用者様の「家族のような安心感」と「地域とのつながり」を大切にし、温かいサポートを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「たのしい家小倉北」は閑静な住宅地の中にある階建ての事業所で、1階には小規模多機能型居宅介護が併設されている。医療機関や学校、公園、スーパーなどが近くにあり、利便性に優れた生活しやすい環境に恵まれている。地域との繋がりを大切にとらえ、地域のイベントや清掃活動に参加したり、ボランティアによる音楽会が開催されたり、年末の「火の用心」の夜回りに参加するなど、地域に根差した役割と交流が図れている。また、母体とする「ケア21」の実績を共有し、そのノウハウを活かした充実した教育体制で、認知症ケアに確かな技術を身につけたスタッフが、いくつになっても生きる喜びと楽しさを感じて貰えるケアの実践に努めている。これからも更なる地域の介護の拠点としての活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域イベントや交流活動を積極的にを行い、地域とのつながりを大切にしています。	法人経営理念を毎日の朝礼で唱和し、理念の共有に努めている。定期ミーティング等で理念を紐解きながら、日々のケアを振り返り、共有し理念の実践に結びつけている。入職時に理念の説明がなされ、目指すべき方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加や連携を通じて、地域との関係性を深めていくよう努めている	町内会に加入し、町内清掃や年末に「火の用心」の夜回りに参加する等、地域の一員としての役割や関係性を深めている。事業所主催の夏祭りには、家族や地域の方の参加もあり交流が図れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての活動は定期的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター職員、民生委員、地域の方を招いて、地域への発信等の相談を随時行っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事業所の運営状況や利用者の暮らしぶりなどを報告するとともに、会議でだされた意見や助言、情報提供などは、サービス向上に反映できるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時は相談行っている。	管理者は、行政の担当者に空室状況や事故報告等の実情を伝えると共に、介護保険の質問や困難事例の相談をする等、日頃から連携を図っている。市職員より困難事例の相談を受け、一緒に問題解決に取り組んだ実例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては年2回以上は研修を実施し、不適切な行為に関して周知をしている	年に2回以上の研修では、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」について理解を深め、共通認識を図っている。また、各フロアの代表と看護師による、身体拘束適正委員会が開催され、不適切なケアの確認と職員への周知により、身体拘束のないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を中心に周知するとともに、スタッフに通報義務の周知を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用しているが、詳細までを学ぶところまでは至っていない	権利擁護や成年後見人制度の資料やパンフレットを整備し玄関に設置している。必要時には制度の内容や申請手続きについて説明を行い、活用できるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは普段からのコミュニケーションをしっかりととり、色々な事に関し齟齬が無いよう努めている	職員は、日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向を汲み取っている。家族には、通信や手紙で日頃の暮らしぶりを伝えたり、面会時や電話で、直接、意見や要望、心配ごと等を聴きとり、運営に反映させるように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段のコミュニケーションやミーティング等で、スタッフの意見を吸い上げ改善に努める努めている。	毎月、併設された小規模多機能施設と合同での全体会議や各ユニット会議が開催され、意見を聞く機会があり、運営や業務改善に反映させる取り組みが伺える。管理者は、日頃から職員が話し易い雰囲気作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与面の反映は事業所単位では難しいが、労働時間に関しては業務終了後はすぐに帰宅して頂く様努めている。 個人面談を定期的に行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別、年齢等は関係なく採用させていただいている。 採用後はできるだけ声掛け等の頻度を多くし不快なく働いていただけるよう配慮している。	職員採用にあたっては、介護に対する考えや姿勢、人柄を優先し、年齢や性別など制限はされていない。管理者は、職員の特長や能力を把握し、その能力が發揮でき、生き生きと働ける職場作りに努めている。また、日頃からコミュニケーションを多くもち、相談や意見などが出しやすい関係作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や、朝礼等にて人権啓発を行っている。	人権については研修で学ぶ機会があり、理解を深めている。職員会議や毎日の朝礼時に、日々の言葉使いや接遇について振り返り、検証と確認をとりながら、人権を守るケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に評価する人事制度があり、その時に面談も行い一人ひとりのケアの力量、考え方を把握に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連携は昨年よりも増えた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントなどで情報を聞くための、記録用紙を作成し正確なアセスメントに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時にご家族の主訴をしっかりと聞き、将来の意向も把握し関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態に応じて、他サービス、又併設に小規模多機能へのご案内をしたりしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には出来ない事を支援、日常生活においてともに生活するということを意識、心がけている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的にはコミュニケーションを取りながら関係性を築き、あとは報連相を細やかに行うことでより関係性が築けている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう可能な限り努めている	知人や友人が面会に訪れたり、家族の協力を得ながら、外出や外泊、受診などに出かけて行ったりなど、これまでに大切にしてきた人や場所との関係性が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活において日々一緒にせいかつされるので関わりは毎日あり、うまく関係性が続く様配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後何かあればご相談頂く様お声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全て要望を受け入れる事は難しい部分もあるが、基本としてご利用者本位で支援している。	日常のさりげない会話から、利用者の意向を聴き取っている。意思疎通が困難な方には、表情や仕草から思いを汲み取り、職員間で共有している。生活歴やこれまでの暮らし方に寄り添いながら、利用者本位の支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて把握につとめている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人評価し、残存機能、出来る事の把握に努め共有する。職員間で支援方法を検討している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議やミーティング等で話し合いをおこない、介護計画にいかしている	本人、家族の意向を踏まえ、アセスメントや担当者会議、モニタリングを実施し、実情に即した計画作成に努めている。また、定例会議などで利用者の現状とケアのあり方について検討がなされ、意見や提案を計画に反映できるよう取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録や申し送りで情報共有をし、介護計画に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活においてに対し、話し合いを行い柔軟に対応している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握は十分に出来てはいませんが、出来る限り協働出来る様努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族のご意向の共有を行い、状況変化があれば定期的に、医療と連携をはかっている。	入居時に、利用者や家族の希望を確認し、かかりつけ医を決めている。殆どの利用者が協力医を主治医としており、月2回の訪問診療や緊急時の対応、看護師、職員との連携により、24時間体制で健康管理がなされ、適切な医療を受けられるよう努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護や往診にて情報収集や助言をもらいながら支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	都度、状況報告は看護師、相談員の方を中心にさせて頂き、退院調整をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族のご意向を把握している。日々の生活の中で変化もあるので、都度相談、ご説明をさせて頂いている。	「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」があり、入居時に方針の説明をし同意を得ている。状態変化に応じて、その都度、家族や主治医と話し合い、意向や方針の確認と共有を重ねながら、終末期の支援に取り組んでいる。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修プログラムに緊急時の研修を受けており又、定期的な緊急時の訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成し訓練を定期的実施している。	BCPの策定や各種マニュアルが整備されている。年2回の昼・夜想定した防災訓練が実施されており、2・3階のユニットや1階の小規模多機能施設と連携を取りながら、迅速かつ安全な避難誘導に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権研修、また接遇マナー研修を定期的に行っている。	人権研修や接遇マナー研修が定期的開催され、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について周知している。日々の言葉使いやケアの振り返りと確認を行いながら、一人ひとりの人権とプライバシーに配慮されたケアの実践に結びつけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるような支援はおこなっている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先の介護をしない様定期的に声掛け、ミーティングにて話し合っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけご本人の意向に沿ったものを身につけて頂けるよう、支援に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人出来る事と、出来ない事を見極め、支援をしている。	食事は調理されたものを事業所で温め、盛り付けをして提供されている。「食事レク」と称したイベントが企画され、料理に参加する機会がある。また節目の行事は豪華な献立でお祝いするなど食を楽しむ工夫が伺える。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し、食事量、水分量に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医衛生士の助言の元支援している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの理解に努め、必要性がある場合には検討を行い、自立に向けた支援に努めている。	トイレでの排泄を基本とし、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者の表情や言動から排泄のサインを見逃さず、さりげない言葉かけと、個別対応にて自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンの把握に努め、運動や飲食物等、都度応じた提供を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の情態に応じ、入浴日を変更し浴槽にしっかりと浸かれる時間を確保している。	入浴は、週2回を基本としているが、利用者の希望や体調に合わせて、柔軟に対応されている。利用者一人一人の好みや習慣に寄り添い、会話を楽しみながら、心身共にゆったりと寛げる時間がもてるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の時間、感覚は皆さま異なるが、日頃の対応にて安心していただけるよう努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	併設の小規模多機能看護師と連携し、薬の把握に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割がやりがい、生きがいにもつながってくるので、食事以外にも楽しみを見つけることが出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出レクリエーション、面会に来られたご家族とのお出かけ等にて支援している	事業所の駐車場や公園に散歩に出かけるなど、日常的な外出支援に努めている。外出レクリエーションでは、季節の花見が企画され、桜や紫陽花見物に出かけている。事業所の菜園では野菜が栽培され、季節の野菜の成長を楽しむ機会もある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、預かり金で施設内で開催するバザーの品や、外部からの服の移動販売の品等お金を使う機会を設けている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話、ご家族とコミュニケーションが取れる環境を作るよう支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は不快の無いよう常に清潔に努め、季節ごとの飾り等で季節感を感じられるように努めている。	明るく清潔感のあるリビングには、テーブルや椅子がゆったりと配置され、その時の気分により思い思いに過ごせる居場所の工夫がある。家庭的で温かみのある空間作りに配慮された、創作品や調度品が壁や室内に飾られ、季節を楽しめるように努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで皆様で過ごされることが多く、気の合った方の席を近くにするなど支援に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染み深い物がある事が安心につながるため、その点をご家族と連携をはかりながら支援している。	居室には、タンス・テレビ・家族写真・寝具等、これまでに使い慣れた大切な物が持ち込まれている。利用者の安全に配慮された家具や調度品の配置が工夫され、快適で居心地よく暮らせる空間作りに努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備や出来る事理解、できない事の把握をすることで、より安心した生活が出来る様努めている。		